

2021年12月23日
九州電力株式会社
西部ガス株式会社

北九州市響灘地区における
最新鋭「LNGコンバインドサイクル発電所」の開発を決定しました

九州電力株式会社（代表取締役社長執行役員：池辺和弘）および西部ガス株式会社（代表取締役社長：道永幸典）は、共同で事業化検討を行ってきた北九州市響灘地区におけるLNG（液化天然ガス）を燃料とした発電所について、本日開発することを決定しましたのでお知らせいたします。

今後、両社は、2022年度始めを目途に本計画の実施主体となる合同会社を設立し、本開発を進めてまいります。

本発電所は、発電方式にCO₂排出量が少ない最新鋭のコンバインドサイクル※を採用し、カーボンフリー燃料（水素等）の活用を視野に入れた設備となっております。

本発電所の開発により、2050年カーボンニュートラルの実現に向けた、九州地域の発電設備の低・脱炭素化を進めることが可能となります。

※ ガスタービンと蒸気タービンを組み合わせた高効率の発電方式

両社は、エネルギーサービス事業を通じて、九州地域における低・脱炭素社会の実現と電力の安定供給に貢献してまいります。

〔発電所の概要〕

建設予定地	北九州市若松区向洋町（ひびき LNG 基地の隣接地） こうようまち
開発規模	62万kW×1基
発電方式	ガスタービンコンバインドサイクル方式 (ガスタービンと蒸気タービンを組み合わせた高効率の発電方式)
燃料	LNG (Liquefied Natural Gas：液化天然ガス)
熱効率	約64% (低位発熱量基準)
工事開始	2023年1月予定
営業運転開始	2025年度末

以上